

# 2313億人の胃袋を満たす 231兆円市場のいま

市場規模で日本を抜く勢いの中国外食産業。中華系レストランの存在感が際立つ中、日本食など外食系も苦戦しつつ伸びている。急成長する香港・台湾地区系企業の活用が外資系の選択肢のひとつになりそうだ。

## 存在感が際立つ地場系レストラン

中国の経済成長とともに消費者の生活レベルも向上、それに伴い中国の外食市場も拡大している。中国の外食市場（社会消費品小売総額のうち飲食）は、2010年に1兆7636億人民元となっている。定義が異なるため正確には比較できないものの、09年の日本の市場規模（約23・9兆円、外食産業総合調査研究センター推計）とほぼ同等の規模。日本は年々縮小しており、まもなく中国が日本を抜くことは間違いないであろう。中国では毎年、飲食店チェーンの上位100位リストが公開されている。09年は上位100社で飲食業市場の7%を占めており、その約

半分が火鍋系のレストランだ。また、中国最大規模のロコミサイト「大衆点評網」の上海版に登録されている飲食店の数を見ると、登録飲食店4万9737店舗（2010年2月時点）のうち、中華料理が28%、日本料理を含むアジア料理が5%、西洋料理が4%、軽食・ファーストフード（巷のワンタン屋なども含む）が41%、その他21%と、ファーストフードを除くと、アジア料理や西洋料理は、それほど多くない。

## 苦戦しながらも 着実に伸びる外資企業

飲食店チェーン統計（一定規模以上）は年々末従業員40人以上、年売上高200万円以上）を見ると、外資企業の活躍がわかる。店舗数



野村総研（上海） 咨询の経理 / 主任 諮詢顧問、葛島知佳氏

で4割以上、売り上げで5割以上を外資企業が占めており、その伸び率も内資企業に比べて高い。

昨年辺りから日本の飲食店の新規出店も多くなってきた。大衆点評網には、日本料理店（いわゆる日式も含む）が、上海版では1463店、北京版では873店登録されている。消費者がポイントを付けた上海版のレストランランキングで、1、2位は日本食、4位に日本のケーキ店がランキング。また、上位30のうち7つが日本食と、日本食が健闘している。一方で、地場の飲食店が溢れる競争の激しい市場に、知名度のない海外の飲食店が入り込むのは非常に難しい。また、不動産や人件費が高いため、単店舗で採算をとることもさることながら、多店舗展開を目指すとなると、人材の教育面など悩みは増すばかりである。そのため、順調にチェーン展開し、

国籍別、飲食店チェーン企業の店舗数と売上高（一定規模以上）

	店舗数				売上高(億元)			
	2007	2008	2009	CAGR (07-09)	2007	2008	2009	CAGR (07-09)
合計	10,973	12,561	13,739	11.9%	645	807	879	16.8%
内資企業	5,336	5,789	6,061	6.6%	249	294	317	12.7%
香港・マカオ・台湾企業	1,002	1,176	1,635	27.7%	63	77	97	24.7%
外商投資企業	4,635	5,596	6,043	14.2%	333	436	465	18.2%
合資・合作企業	1,075	1,283	1,370	12.9%	83	98	108	14.0%
外資企業	3,560	4,313	4,673	14.6%	250	338	357	19.6%
香港・マカオ・台湾企業の割合	9.1%	9.4%	11.9%		9.7%	9.5%	11.1%	
外商投資企業の割合	42.2%	44.6%	44.0%		51.6%	54.0%	52.9%	

一定規模以上：年末従業員40人以上、年売上高200万元以上

規模を拡大している事業者は一部であり、一方では撤退を進める外食企業もいることも確かである。飲食店チェーン統計では、香港・マカオ・台湾地区の企業も躍進していることがわかる。07～09年で店舗数・売り上げとも約1・5倍に拡大、スピード感を持って急拡大している。香港・台湾地区企業との提携など、華人系の活用も選択肢のひとつになりそうだ。